



# ポ プ ラ

学校教育目標「志に生きる」やる気 おもいやり たくましさ  
生徒数 546名 教職員数 39名

## 積み重ねの大切さ <一升枧>

校長 結城 正弘

入学式・始業式で『凡事徹底』を貫き、夢を叶えようという話をしました。1学期は、『自分の夢（目標）を持つ学期』と位置付け、皆さんが夢の実現に向けて頑張れるよう、先生方も応援しています。

さて、凡事徹底を貫くこととも通じますが、積み重ねの大切さ、継続することの大切さについて次のような話があります。

江戸中期の儒学者 新井 白石（あらい はくせき）が子どもの頃のことです。遊んでばかりいて、少しも学問に身を入れない息子に、父は心を痛めていました。ある時、そんな息子を呼んで、一升枧に入れた米を目の前に置き、語りだしました。

『この枧の中の米を一粒取っても、減ったことが分からない。しかし、毎日一粒ずつ取って行くと、やがてこの枧の米は無くなるであろう。これと同じで、一粒増やしても分からないが、一粒が二粒になり、やがて百粒にもなれば、増えたことが歴然としてくる。

人間の知識もこれと同じだ。一日や二日勉強しても、知識が身に付いたことは分からぬが、一年、二年と積み重ねられると、怠けていた者と身を入れて学問をしていた者との差が歴然としくものじゃ。』

噛んで含めるような父の言葉は、少年の心に深く染み込んでいったようです。以後、白石少年は学問に身を入れ、九歳で一日四千字の手習いを志し、眠くなると水をかぶって勉強するほどの精進振りであったといえます。

この白石少年は、後に六代将軍家宣、七代将軍家継の二代に渡って信頼され、徳川政治を動かすほどの人物になりました。

昨年の9月26日の新人戦から5月1日までに、216日が経過しました。一日一日を大切に、激しい練習を積み重ねてきた生徒は、216粒の米を枧に入れたこととなります。一日や二日の頑張りでは目に見えなかった努力の跡が、少しずつ見えてきたはずですが、努力した結果がすぐに見えれば誰でも頑張れるのですが、勉強でも運動でも努力した結果がすぐには現れてこないことが多いようです。だからと言って、努力することをやめてしまえば、枧の中はいつまでたっても満たされません。気付いた今日から努力を始めれば、確実に一粒ずつ枧にたまっていきます。

今日から3年生の公立高校の受験日までは305日、卒業式までは319日あります。そして、1, 2年生の修了式までは330日もあります。一日や二日では目に見えなかった努力の跡が、きっと少しずつ見えてくるはずですが。

『やり抜く心』『あきらめない心』で、努力を続けていきましょう。

